



研究者名※	篠原 聡子	学位※	日本女子大学大学院 家政学研究科 修士課程
所属※	建築デザイン学部 建築デザイン学科	職名※	教授
連絡先	sinohara@fc.jwu.ac.jp		
URL	https://mcm-www.jwu.ac.jp/~sinohara/		
researchmap※	https://researchmap.jp/read0141323		
研究分野※	建築設計 住居計画		
研究キーワード※	集合住宅、シェアハウス、コモンズ		
共同研究・競争的資金等の研究課題	・地域生活記憶集積メカニズムの解明とアーカイブ施設の社会実験及びその運営手法の構築（2005～） 展ニュータウン・大規模団地の地域住環境運営における中間集団の役割と可能性（2001～）		
社会貢献・産学官連携活動等	・野村不動産株式会社からの受託研究「良好なコミュニティのためのコモンスペースのデザインに関する研究」（2015～現在）「分譲マンションにおけるコミュニティ形成に資する共用空間の研究と提案」（2015.2～現在） ・独立行政法人都市再生機構と共同で主催するリノベーションコンペティション「JS×JWU UR賃貸住宅リフォームコンペティション」（2014～）に始まり学生自身が設計案から実際の空間になるプロセスに参加し、それまで模型の縮尺だった空間を1/1スケールで体験する、実践的教育。		
受賞歴	東京建築士会住宅建築賞(2000)/ 住まいの環境デザインアワード環境デザイン最優秀賞(2013)/ 日本建築学会賞（作品）(2014) /グッドデザイン賞(2011)/千葉県建築文化賞(2011)/ 山梨県建築文化賞（住宅建築の部門）(2017.11)		

研究領域	建築計画 住居計画	(SDGs)	
研究テーマ※	集合住宅 シェアハウス コモンズ		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 世帯の員数が減少し、大都市では単身世帯が過半数を占める中で、少人数世帯の孤立は社会的問題になっている。家族か、単身者かではない新たな住まいの形が模索されるべきという問題意識のもと、フィールドワークと設計を通して新たな住まいの形を提案する。また、近年は、住まいにとどまらない視点から、生きていくためのネットワークを創造する空間、コワーキングスペースなどを含むコモンズについての調査研究を行っている。</p> <p>【応用例、研究の展望】 実際の提案の一つがシェアハウスである。シェアハウスについては、調査を書籍化し、また設計事務所と連携して実作の設計に関わっている。 コモンズとして、日本のマンションにおける共用空間をとらえ、望ましいコモンズの形成のためのデザインの指針を作成した。</p> <p>【研究方法の特色】 日本国内、アジアの諸都市において、集合住宅を中心にフィールドワークを行っている。観察、実測、インタビューを通して、住まい手による空間のカスタマイズに着目し、それを新たな計画にフィードバックするためにデザイン指針を作成している。</p>		
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・変わる家族と変わる住まい(彰国社 2002年)・住まいの境界を読む(彰国社 2008年) ・多縁社会(東洋経済新報社 2015年)・アジアンコモンズ(平凡社 2021) 		
共同研究・外部機関との連携への期待	ポストコロナの職住一体化した新しい集合住宅の開発 コモンズとしてのコワーキングスペース、地域振興という視点からのコワーキングスペースの研究		

